

3. 菅 桂太 (国立社会保障・人口問題研究所)..... 結婚、出産と妻の就業：第5回全国家庭動向調査 (2013年) の結果
4. 鈴木 透 (国立社会保障・人口問題研究所)..... 地域別人口推計と世帯推計の統合の可能性
5. 原 俊彦 (札幌市立大学)..... 北海道の人口動態 2015年：高齢者の移動と外国人居住者の影響
6. 林 玲子 (国立社会保障・人口問題研究所)..... 高齢者の移動—施設人口に注目して
7. 清水昌人 (国立社会保障・人口問題研究所)..... 市区町村における外国人の転入超過と日本人の転出超過

(清水昌人 記)

台湾における低出産・高齢化と政策的対応に関する資料収集

厚生労働科学研究費による研究事業「東アジア，ASEAN 諸国の人口高齢化と人口移動に関する総合的研究」の一環として，筆者が11月22日～26日にかけて台湾を訪問，専門家との面談と資料収集を行った。面談した専門家は，楊靜利教授 (国立中山大学)，陳玉華教授・林明仁教授・薛承泰教授 (国立台湾大学)，楊文山博士・于若蓉博士・蔡明璋博士・林季平博士 (中央研究院) 等である。楊靜利教授は現在台湾人口学会会長であり，日本人口学会との間の連絡を密にすることを確認した。林季平博士とは，12月の国際セミナーに関する打ち合わせを行った。

(鈴木 透 記)

第31回日本国際保健医療学会

2016年12月3・4日に，福岡県久留米市の久留米シティプラザで，「民間から発信する国際保健医療」をテーマに，第31回日本国際保健医療学会学術大会が開催された。持続可能な開発目標 SDGs が国連で採択されて1年になり，その評価や民間企業における取組が議論された他，通常の国際協力の枠を超えた，日本の医療の国際展開やグローバルヘルス人材育成戦略，熊本地震災災害支援や海外渡航者の予防対策などをテーマとしてシンポジウム・セミナーが開催された。アジア・アフリカからの参加者も多く，合計で17のシンポジウム・セミナー，103題の口演・ポスター発表が行われた。

筆者は「実施1年を迎える SDGs-その課題と展望」と題するシンポジウムで，『「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に資する人口エビデンス・ベース-人口登録と動態統計 (CRVS) 整備の現状』と題する報告，「グローバルエイジング」自由集会以て『高齢化と障害率アフリカ19ヵ国を含む世界各国の動向』という報告を行った。

(林 玲子 記)

「高齢化する東アジア諸国における国内・国際人口移動」国際セミナー

厚生労働科学研究費補助金「東アジア，ASEAN 諸国の人口高齢化と人口移動に関する総合的研究」では，以下の通り国際セミナーを開催した。

題目：“Domestic and International Migration in Eastern Asian Aging Countries”

日時：2016年12月16日 (金) 13:30～17:00

場所：国立社会保障・人口問題研究所第4・5会議室

プログラム

1. SUZUKI Toru (National Institute of Population and Social Security Research)
Introduction: Trends of Domestic and International Migration in Eastern Asia
 2. CHO Youngtae (Seoul National University)
Can Korea Ever Become a Multi-cultural Society?
 3. LIN Ji-Ping (Academia Sinica)
The Role of Migration in Shaping Taiwan's Contemporary Population and Health Care Policy in the Context of Ageing Population
 4. MA Xin-Xin (Hitotsubashi University)
Domestic Migration and Discrimination against Migrants in China
 5. CHEUNG Paul (National University of Singapore, JSPS Fellow)
Population Ageing and Replacement Migration: Perspectives from Singapore
- Comments:
HAYASHI Reiko (National Institute of Population and Social Security Research)

鈴木報告は日本・韓国・台湾・中国・シンガポールの低出産・高齢化と国内・国際人口移動を概観した。Cho（曹永臺）報告は韓国の外国人人口の動向と展望を分析した。Lin（林李平）報告は台湾の人口移動と高齢者介護の関連を扱った。Ma（馬欣欣）報告は中国の農民工の都市流入と戸口制度の問題点を分析した。Cheung 報告はシンガポールにおける移民政策の問題点を指摘した。林玲子国際関係部長によるコメントに続きフロアからも活発な質問があり、有意義な討論が行われた。

（鈴木 透 記）

順天堂大学「持続可能な高齢化社会」フォーラム

2016年12月17日、東京都千代田区御茶ノ水の順天堂大学にて、「持続可能な高齢化社会」フォーラムが行われ、日本とシンガポールにおける人口高齢化およびその対策の概況および、日本における自治体（愛知県東郷町）や企業の取り組みについての講演が行われ、筆者も「健康をどう測るか～その推移と展望」と題する講演を行った。特にシンガポールの概況は、前国連統計局長のポール・チュン国立シンガポール大学教授が、SDGs（持続可能な開発目標）という文脈における持続可能な高齢化について問題提起し、アジアではいち早く1986年に少子化対策を打ち出したシンガポールにおける課題についても議論された。会場からは、学生から先進の高齢者のまちづくり事業などと共に、高齢者の貧困にどう対応するのか、という質問などが提起された。

（林 玲子 記）

「高齢化する日本と外国人ケア人材」ワークショップ（長野県木島平村）

2017年1月22日に「高齢化する日本と外国人ケア人材」ワークショップが、長野県下高井郡木島平村の木島平村若者センターで開催された。このワークショップは、神谷浩夫教授（金沢大学）の科研費研究グループが主催し、インドネシア、フィリピン、ベトナムからの研究者による報告の他、日本人研究者によるドイツの外国人介護事情、名古屋地域の介護サービス業の雇用事情などの報告が行わ